

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月21日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①教科学習と課題研究の相乗効果による「知の循環」を恒常的なものにするために、調和のとれた学習機会と環境を提供する。 ②「主体的・対話的で深い学び」を恒常的なものとし、生徒の資質・能力の伸長につなげるために、組織的な授業改善に取り組むとともに、指導と評価の在り方についての更なる研究をする。	①指定校事業であるSSH、STEAM教育及び学力向上進学重点校としての各取組を推進し、その相乗効果により「知の活性化」の促進と、論理的思考力や科学的思考力を伸長する。 ②組織的授業改善に加え、プロセス評価を重視し、成果の可視化やフィードバック等により、生徒の課題研究力を高める取組をすすめる。 ③多角的な評価を実践し、充実した指導につなげる。	①実験、観察、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション等の学習活動を積極的に取り入れ、生徒の主体性と課題研究力の更なる向上を図る。 ②課題研究において、分析・考察・表現等のプロセスを評価に取り入れ、フィードバックするサイクルを職場全体で実践する。 ③教科横断的な授業実践と評価に加え、生徒相互、専門家、企業等の評価を指導につなげる。	①各教科で生徒の主体性と課題研究力を高める活動を取り入れることができたか。また、その結果生徒の論理的思考力や科学的思考力の向上がみられたか。 ②成果だけの評価ではなく、課題研究全体の評価を行い、適切なフィードバックを実践できたか。 ③生徒の深い学びにつながる指導と評価を実践できたか。また、「生徒による授業評価」「リフレクションシート」等に授業改善の成果が見られたか。	①STEAM教育実践により教科横断的授業を実施することができた。また、職員全員による事後研修を行い、授業力向上に繋がる学びとなった。 ①プレゼンテーションやディベート等の活動を各教科で取り入れた結果、論理的に根拠を説明できる生徒が増え、外部発表会等でも成果を収めた。 ②分析・考察・表現等のプロセスを評価に取り入れることができた。 ③専門家、企業等の評価を指導につなげることができた。	①教員間のSTEAM教育の目的について、共通認識を深めていくことで、より充実した実践となるため、事前研修の重要性を改めて確認する。 ①外部発表の機会が増え、課題研究意欲が高まっている状況を捉え指導を継続する。 ②Principiaでの課題研究ではフィードバックするサイクルを確立しているが、全教科で実践することに課題が残る。 ③生徒相互の評価を行う機会を増やすことが必要である。	○本校の熱心な取組をマスコミ等を利用してもっと発信してはどうか。Ⅲ期では地域への発信を意識してほしい。 ○教科Principiaの学習活動をもっと中学生にも伝えてほしい。探究的学習活動の魅力をもっとアピールした方がよい。	①STEAM教育や教科横断的授業を具現化し、職員研修を通じて組織的な授業改善を推進できた。 ①各教科の対話的学習活動により、生徒の論理的思考力が向上し、外部発表における成果につながった ②Principiaで確立した評価サイクルを全教科へ波及させるとともに、生徒相互の評価機会を拡充することが課題である。	①STEAM教育の目的共有を重視した事前研修を強化し、教員間の共通認識をより一層深める。 ①Principiaの評価について、その成果を汎用的な指標として整備し、全教科でのプロセス評価実践を支援する。 ②リフレクションシート等を活用した評価の場を設け、自らの学びを客観視し改善し続ける自律的な学習態度の育成に注力する。
	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①特別活動や部活動の活性化や充実を図るとともに、生徒が学校生活に主体的に取り組むことで、校訓「自主自律」の精神を育むことができるよう支援する。 ②教育相談について、校内の情報共有が迅速かつ確実に行われるような体制を構築するとともに、SC・SSWや外部機関との連携を強化し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。	①体育祭・県横祭(文化発表会)等の学校行事や部活動について、生徒の主体的な取組を支援し、生徒の企画力・指導力や他者を尊重する姿勢を育む。 ②問題を抱える生徒について迅速な情報共有を行い、適切な支援体制を構築する。	①6月に移動実施される体育祭、及び10月に新規実施される県横祭について、生徒主体の行事となるよう生徒のアイデアを尊重しながら支援する。 ②教育相談コーディネーター、養護教諭およびSC・SSW等による定期的なコア会議を開催し、密な情報共有を維持する。	①各行事について実行委員生徒が主体となって企画・実施することができたか。 ①本年度の行事における成果及び次年度に向けた課題を関係生徒が振り返り、共有できたか。 ②コア会議によって情報共有が迅速かつ適切に行われたか。 ③問題を抱える生徒に十分な支援ができたか。	①各行事について、実行委員生徒が主体となり企画・実施することができた。 ②各学年の情報共有を定期的に行い、迅速で適切な支援を行えるような体制を維持できた。 ③必要に応じてケース会議を行い、問題を抱える生徒の学習を支援する体制を構築できた。	①10月の県横祭については部活動や有志団体によって参加の度合いに差が生じた。 今後、行事の意義・目的や実施の時期・形態も含めた検討が必要である。 ②様々な理由で登校が難しい生徒についてケース会議を適切に行い、情報共有や多様な学習支援につなげることができた。	○中学生の部活動体験などは、今後も継続して行ってほしい。 ○以前は、部活動の生徒が小学校前であった時もあった。高校生だけでなく地域の子どもたちにもマナーなどを育むよい場面であったと思うので、復活に期待したい。	①体育祭においては、生徒の自主性を尊重する形で実施することができた。 大きな行事が6月に移動したことにより、改めて年間を通した学校行事の組み立てを構築する必要がある。行事の意義・目的も含め検討する時期に来ている。 ②必要に応じてケース会議を行い、登校が難しい生徒への細やかな支援を行った。	①年間行事計画について見直しを図り、生徒の成長段階や進路希望の実現などとの関連性も考慮しながら検討する。 ②登校に困難を抱える生徒の多様性に対応するため、教育相談体制の一層の充実化を図る。
3	進路指導・支援	①生徒がライフキャリアの視点に基づく進路希望を持ち、それを実現させる力を全教育活動において育成できるよう進路指導・支援の体制を築く。また、生徒の主体的な取り組みを支援し、進学実績の向上を図り、学力向上進学重点校の指定を目指す。 ②生徒の進路希望実現を援助するため、社会の動きに即してあらゆる面で環境を整える。	①入学当初より、高い進学意識と高い進路希望を抱き、その実現に向けて主体的に取り組む態度を育成し、その目標実現に向けて教員が高い指導力をもって取り組む環境を整える。	①「未来ナビ」、「イマナビ」などのキャリア教育を通して、生徒が高い志望を持ち、維持することに役立っている。 ①各教科で難関大学入試問題研究を行うなど、生徒の希望進路実現の支えとなる教科指導力を培うとともに、教員対象の進学指導研修会等を実施し、教員のキャリア教育への意識を高める。	①学年進路集会在複数実施できたか。「未来ナビ」と「イマナビ」、第一志望宣言の実施により、生徒の進路に対する見識が深まったか。 ①難関大学志望者対象の課外講習が各教科で実施されたか。 ①難関大学受験者数が増加したか。進学実績が向上したか。	①各学年で時期に応じた学年進路集会を複数回実施できた。「未来ナビ」、「イマナビ」、第一志望宣言実施等を通して、生徒の進路に向けての見識を深め、高い目標を維持することに役立っていた。 ②夏期講習を中心に各教科で難関大学対応の講座が開設され、低学年から希望者が参加した。難関大学対応の講座を開設することで、教員の教科指導力が向上した。	①学年進路主体の進路活動として十分機能しているが、3年間を見通した進路指導計画として練り直し、洗練させる余地がある。 ②各教科が夏期講習で難関大学向けの指導を展開したことは今年度の新機軸であるが、それに加えて、難関大学志望者向けの通年の補習が数学、英語、理科で見られるようになった。さらに拡大していきたい。	○教職員の指導力向上の意識を高めてほしい。生徒の精神は育まれていると思うので、さらに火をつけてほしい。 ○“未来ナビ”など、生徒のキャリア教育につながるような取組は評価できてほしい。	①高校3年間を見通し、各学年の進路目標と目指したい生徒像を念頭に、キャリア教育を検討することが課題である。 ②難関国立大学の合格者7名を含め、国公立大学合格者が69名となり、国公立大学に進学する生徒の割合が25%を超えるなど進路実績が向上した。 ③難関校を目指す生徒の指導を継続することで、教員間に受験指導のノウハウが蓄積されている。	①高校生活3年間を見通した進路指導計画であるYokoko Bridgeをもとに模擬試験受験計画を作成した。基礎力診断となるスタディサポートの3年生での実施について、業者テストではなく、教員が生徒の実態に合わせて作成したテストを課し、その成績データを蓄積することで、受験指導に役立てていく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月21日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>①探究活動を通して得た知見を、社会に発信したり、近隣の小中高等学校と共に探究活動を行う等して、科学の普及や地域活性化に繋げる。</p> <p>②コミュニティスクールを活用した地域との連携をより一層深めるとともに、開かれた学校づくりを継続して推進する。</p>	<p>①本校の探究活動の成果を外部に発信する場面を工夫し、地域の活性化に繋げる。また、地域の学校の探究活動が発展していけるような工夫をしていく。</p> <p>②生徒・保護者や近隣住民と連携した活動を実践し、家庭・地域の教育力を本校の教育活動・地域貢献につなげる。</p>	<p>①探究活動への取組やその成果を外部に発信する。</p> <p>①地域の学校が探究成果を発表したり、参加できる機会を作っている。</p> <p>②地域の祭事、防災訓練等への生徒会活動としての参加や年間計画への位置付けなどの方策を検討し、実践につなげる。</p> <p>②ボランティアバンクを中心とし、家庭・地域へのボランティア活動の活性化を図る。</p>	<p>①探究活動への取り組みやその成果を外部に発信したり、他校が発表する機会等を効果的に設定できたか。</p> <p>②生徒の地域活動への参加の機会をとらえ、計画的に参加させることができたか。</p> <p>②PTA、同窓会を核としたボランティア活動を活性化することができたか。</p>	<p>①SSH NEWSを年間30号以上作成し、HP等で公表することで、探究活動や課題研究を通して得た知見を地域へ発信することが出来た。</p> <p>①科学技術コンテストに9名が参加した。</p> <p>②地域の社会福祉協議会主催の文化発表会への参加など、例年参加している行事には参加することができた。</p>	<p>①SSH NEWSを相当数発行することが出来たので、今後は、地域へ公開するイベントの案内を掲載するなど、より一層地域への発信を進めていく。</p> <p>①参加する科学技術コンテストに偏りがあるため、様々な分野に挑戦する土壌を作っていく必要がある。</p> <p>②地域の防災訓練には職員の視察のみにとどまった。今後は参加を検討していきたい。</p>	<p>○小・中学校との交流などは大変評価できる。私学では、中高のつながりを重視した取組をすすめているところもある。</p> <p>Ⅲ期では地域への発信を意識してほしい。</p> <p>○高校生になると学校での出来事などを保護者に話す生徒も少なくなる。保護者や中学校の先生が日頃の学習活動の様子をみることでできる場面を競ってしてほしい。</p> <p>○地域の防災訓練への協力をすすめていただけるとありがたい。</p>	<p>①年35号のSSH NEWS発行やコンテスト挑戦、地域行事参画を通じ、探究成果の広範な外部発信を実現した。</p> <p>②発信内容の工夫による地域との双方向性の強化や、挑戦するコンテストの増加が課題である。</p>	<p>①SSH NEWSに地域公開イベントの案内を掲載し発信力を高めるとともに、多様な科学分野への挑戦を促す指導体制を構築する。</p> <p>①部活動や授業と連動してアナウンスを行うことで、科学技術コンテスト参加数の増加を図る。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学校ホームページの全体構成や内容を見直し、外部への情報発信の強化に努める。特に部活動や学校行事、SSH事業の情報発信の充実を図る。</p> <p>②広報活動に関わる生徒の継続的な活動を支援し、生徒目線による学校の魅力を外部に発信する。</p> <p>③教職員のワークライフバランスを充実させ、心身ともに健康で、心にゆとりを持てるような働き方の改革をすすめる。</p> <p>④教育環境の整備や施設の老朽化対策整備を行う。</p>	<p>①学校ホームページの更新頻度をさらに高める。特に、部活動紹介ページにおいて、日々の活動を紹介するなど、より充実させる。</p> <p>②広報タスクフォースの継続的な活動支援を通じて、生徒主体の広報活動をより充実させていく。</p> <p>③Teamsの活用などを通して、会議時間の削減や密な情報共有を実現し、働き方改革に結びつける。</p> <p>④教室整備や清掃活動等における課題を整理し、適切な教育環境のあり方について共有化し、その実践につなげる。</p>	<p>①定型フォーマットを作成するなどして日々の部活動を紹介しやすい環境を整え、こまめな情報発信につなげる。</p> <p>②若手職員を担当職員に加え、より生徒目線での活動を支援する。</p> <p>③各組織においてTeamsの活用をすすめる。</p> <p>④清掃用具等の点検・整備等により校内美化活動を活性化し、生徒の愛校心につなげる。</p>	<p>①部活動の紹介記事の更新回数が増加するなど、本校の魅力をより発信するホームページとなったか。</p> <p>②学校説明会等の広報活動に工夫・改善を加え、より本校の魅力を伝える広報活動が展開できたか。</p> <p>③会議時間の削減など、校務の効率化がすすんだか。</p> <p>④生徒の愛校心を育むような教育環境の整備がすすんだか。</p>	<p>①ほぼ全ての部活動の紹介を掲載することができた。さらに複数の部活動が年度途中で更新を行ったことで学校HPの充実化が図られた。</p> <p>②若手職員による指導により、生徒の目線に近い広報活動が一層充実した。また、想定以上に説明の機会が前年度よりも増え、本校の魅力発信が促進された。</p> <p>③TeamsのChat機能を活用し会議削減が進んだ。また、会議のペーパーレス化も推進された。</p>	<p>①年に1回の更新しか行われていない部活動もあったので、更新機会を増やす点が課題である。</p> <p>②昨今動画視聴が主流な情報取得の媒体となっているが、生徒による動画作成が難しい場合もあり継承が課題。</p> <p>③Teams活用による業務効率化はほぼ完遂し、あとは職員の意識付けであるため、別の視点での働き方改革が必要と考えられる。</p>	<p>○学校ホームページのこまめな更新は。評価できる。</p> <p>○社会的な流れである働き方改革にも、継続して取り組んでいってほしい。</p>	<p>①学校ホームページのこまめな更新を行うとともに、より更新がスムーズにいくように定型フォーマットを作成するなど、だれもが更新しやすい環境を整えた。</p> <p>③Teamsをはじめ、百問繚乱、すぐーなどのアプリを活用して、校務の効率化を図ることができた。</p>	<p>①今後も学校ホームページのこまめな更新に努めるとともに、より魅力的なホームページとなるよう検討を続けて、実践する。</p> <p>③各アプリの活用について精査し、校務の効率化につなげるとともに、働き方改革の視点にたつて、その他の校務についても見直しをすすめる。</p>